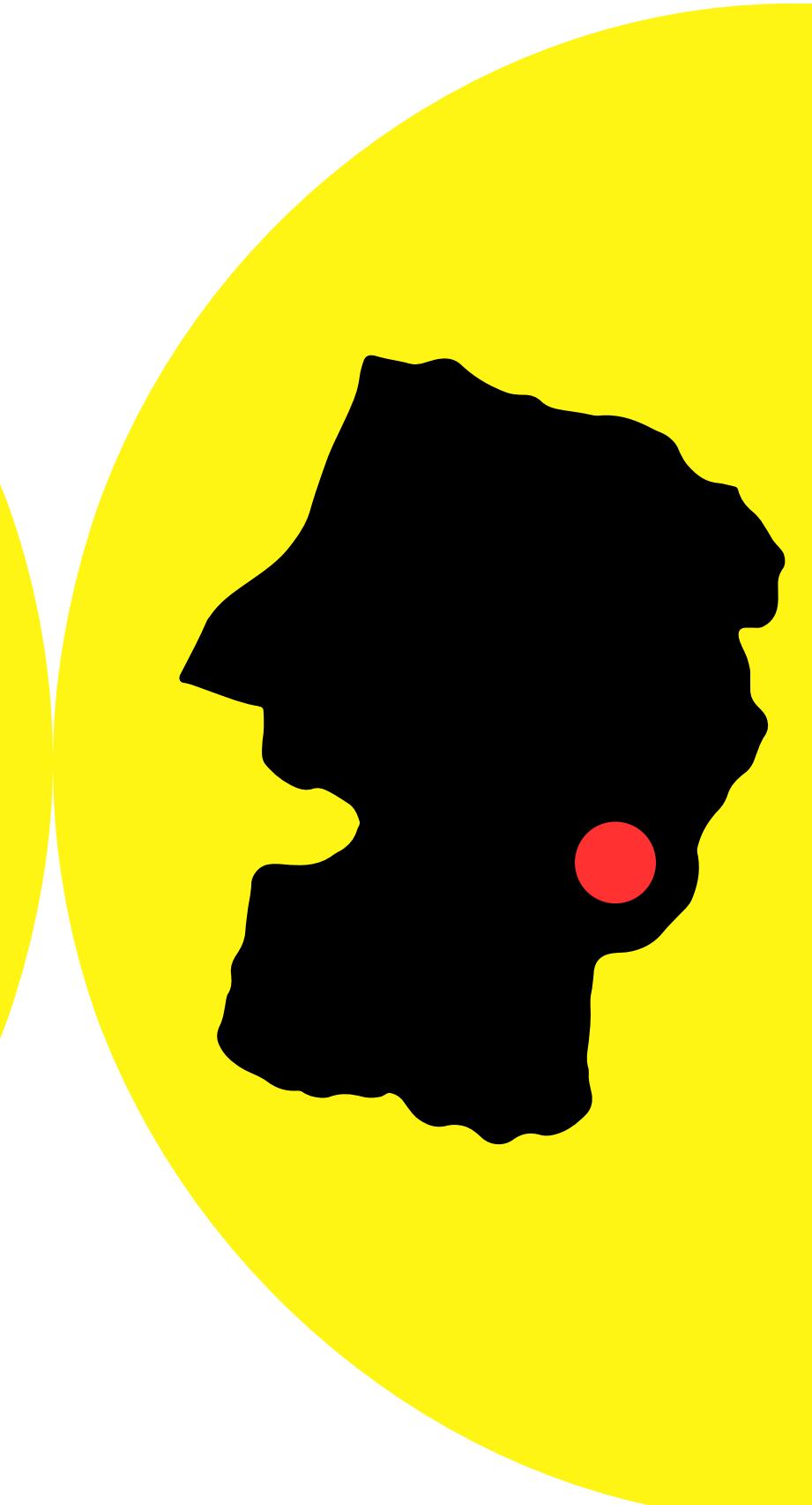


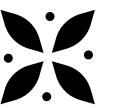
YAMAGATA STUDY TOUR

全体報告会 山形市班

—

文化財の保存や活用に当たっての効果的な取組の提案
～文化創造都市、交流人口の推進のために～





目次

- 1) 参加メンバーの紹介
- 2) 山形市の概要～現状と課題～
- 3) 今回私たちが与えられたテーマ
- 4) 4日間の現地視察・活動の概要
- 5) 課題解決のための提言・方策
- 6) 若者世代ができること・今後の展望



参加メンバーについて

ABOUT US

木村桜美（中国語、4年）

山形訪問歴：免許合宿で1回 出身：東京都

豊田愛來（国際日本、3年）

山形訪問歴：なし 出身：群馬県

荻久保里桜（マレーシア語、2年）

山形訪問歴：なし 出身：埼玉県

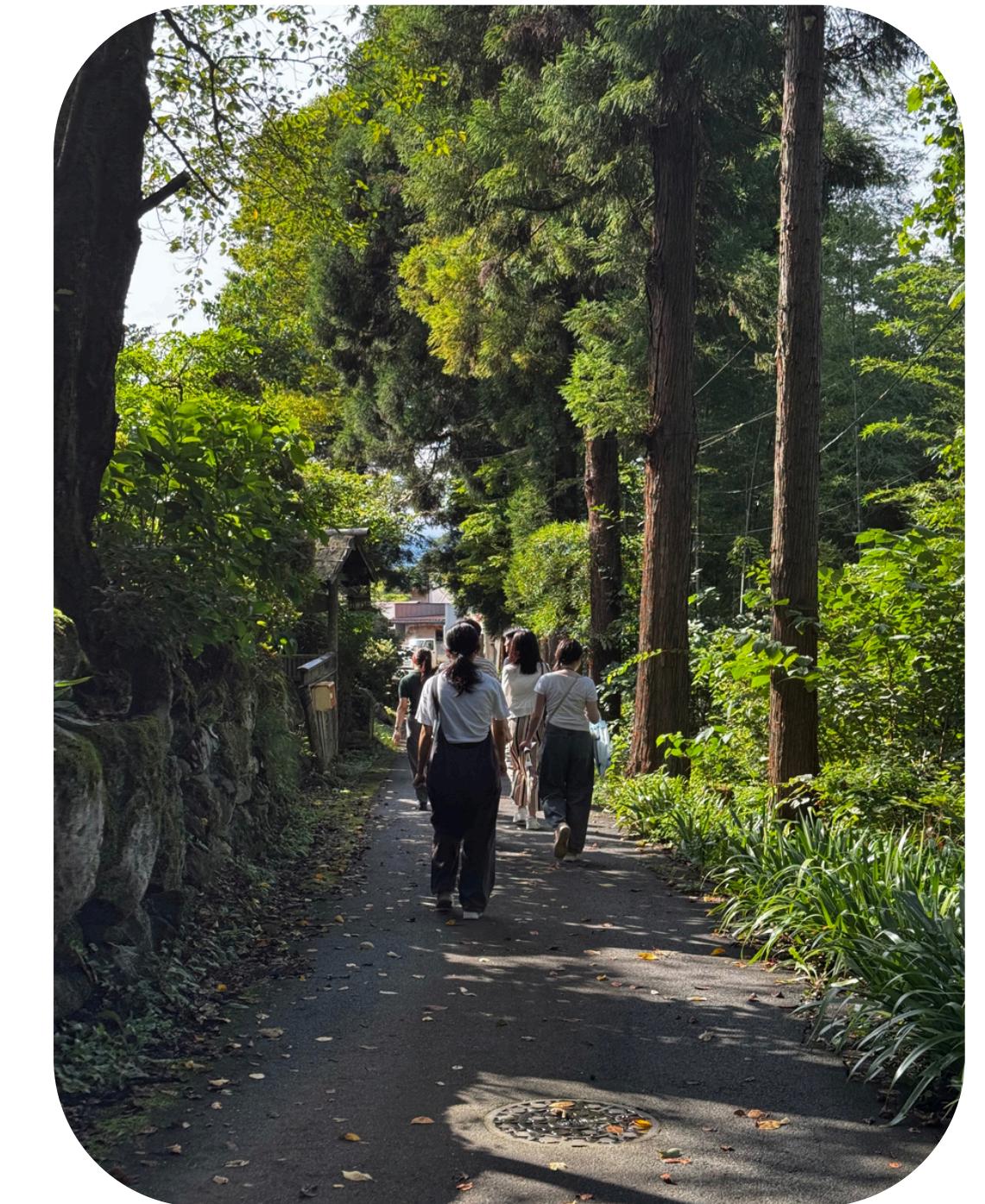
丸橋亮太（ポーランド語、2年）

山形訪問歴：なし 出身：神奈川県

金元万桜（インドネシア語、1年）

山形訪問歴：なし 出身：静岡県

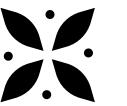
全員、関東出身。ほぼ山形（東北）初上陸！





「文化」を取り巻く現状と課題

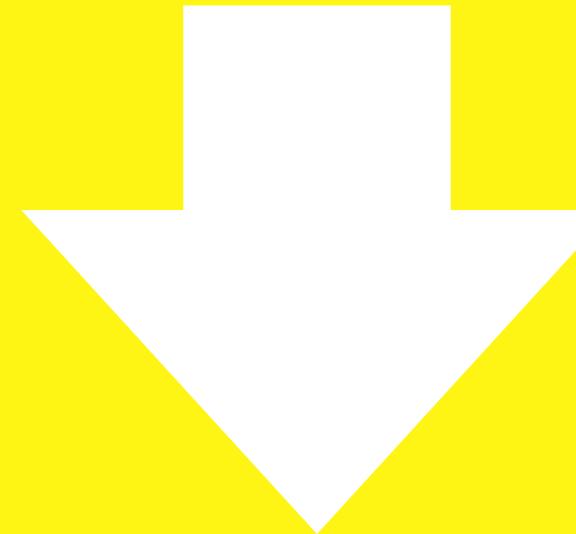
山形市



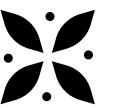
002

-少子高齢化に伴う人口減少-

-若者の他県、都会への流出-



- 文化に接する機会の減少
- 地域文化の担い手の不足(伝統工芸、民族芸能等)



「文化創造都市」計画とは

背景

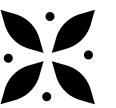
平成29年(2017年)のユネスコ創造都市ネットワークへの加盟認定を契機として、文化と他の分野との連携による地域活性化の取組を進める動き

目的

文化の継承・発展・創造及び創造性を活かした連携による新しい価値の創造により、持続的発展が可能なまちを推進する。

施策

創造的活動のための機会の充実、文化財の保存及び活用等大学との連携も施策のうちの具体的な取組のひとつ！



自治体(山形市)から与えられたテーマ

求められること

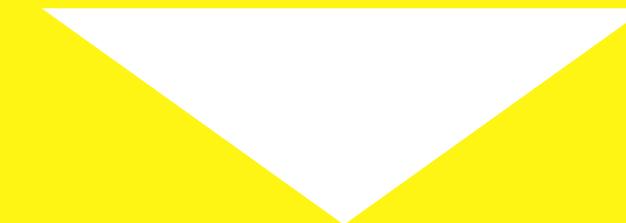
ABOUT YAMAGATA CITY

山形の特性を活かした地域社会の持続と活性化、交流人口の増大を目指す。今回は特に山形市に残る“文化財”を軸に考える。

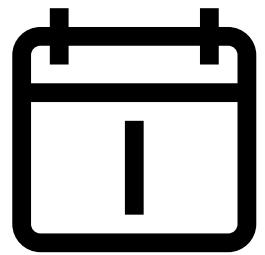
現地で見て、触れて、感じた
文化財、文化資産の素材をもとに



★ 文化財の保存や活用に当たっての効果的な取組・事業を提案する



【文化創造都市】を推進する

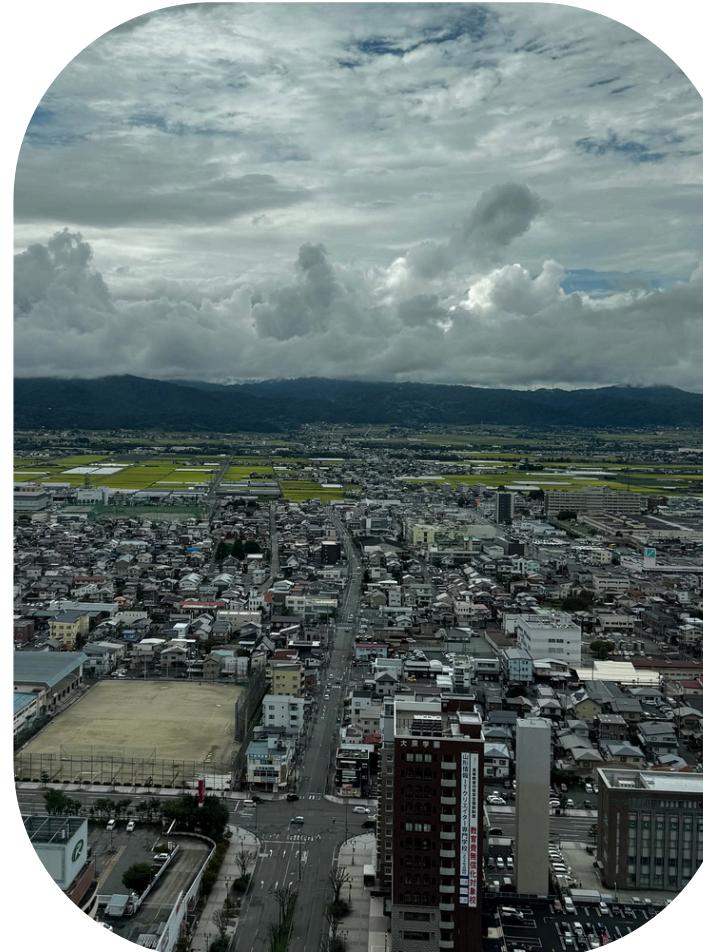


山形駅周辺・山形市郷土館（旧済生館）・霞城公園（史跡山形城跡）

① 005

4日間の現地視察・活動の概要

OBSERVATION



霞城セントラルの展望台



旧済生館
山形市郷土館

市内を一望できる眺望スポット

晴れている日には東西に連なる
丘陵・山岳を見ることができる

国指定重要文化財

明治時代に山形県立病院と
して建設された

医療や医学に関する資料が
展示されている

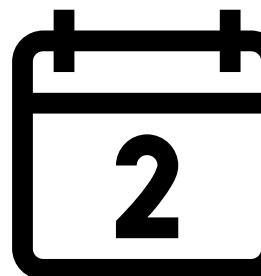


霞城公園

山形城跡の公園

現在本丸の発掘、復原作業を行っている

体育館や武道館などのスポーツ施設、
博物館や郷土館などの
文化施設が設置されている



旧千歳館・旧山形師範学校（山形県立博物館 教育資料館）

旧山形県庁（山形県郷土館 文翔館）・最上義明歴史館・山形城跡発掘調査現場...

山形市



①⑥



国登録有形文化財
旧千歳館

明治時代から営業していた老舗料亭
国指定有形文化財の主屋を活用した都
市公園を市が整備する予定



旧山形師範学校
山形県立博物館教育資料館

多くの教科書や教材、教室
の模型などで山形県の教育
史を学ぶことができる



国指定重要文化財
旧山形県庁（文翔館）
山形県郷土館

議場ホールを活用したコンサート
などのイベントも行われている
レトロな雰囲気の中で食事を楽しむ
ことができるカフェも営業している



最上義光歴史館

山形のまちなみの原型をつ
くった人物である最上義光
について詳しく学ぶことが
できる



山寺立石寺・道の駅やまがた・旧松鷹寺観音堂 蔵王温泉/スキー場・長谷堂城跡

山形市



①⑦



山寺立石寺



1000段余の階段を上った先に待つ
自然あふれる絶景

道中には日本の伝統的な休憩処を彷彿と
させるお土産・茶店が
(玉こんにゃくが絶品!!)

幼稚園～小学校低学年の子供たちが
親を含めた集団で絶景を楽しむ姿も



旧松應寺觀音堂

さわやかな風が吹く避暑地的な魅力
ありのままの自然が美しい

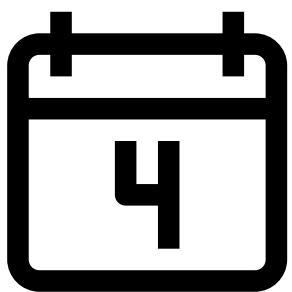


長谷堂城跡

山形市内を一望できる広場と
優しい登山の体験

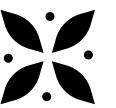


植栽活動や自生植物の保護活動による
里山としての魅力も



クリエイティブセンターQ1・勝因寺（座禅体験） 山形まるごと館（紅の蔵）・山形市役所

山形市



①⑧

引用：ポータル！やまがた！



クリエイティブセンターQ1



昔は実際に小学校として使われていた施設
カフェや本屋、企業のオフィスまでもが
校舎の造形を生かしたまま導入されている
外観は歴史を感じさせるが、テナントは
流行を取り入れた現代風のスタイル

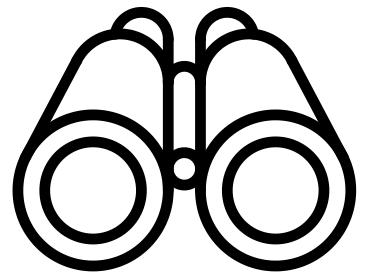
市指定文化財
勝因寺（座禅体験）

禅宗の寺院であり、座禅会、座禅体験を
積極的に行っている
実際に簡易的な座禅を体験
レンタルスペースとして貸し出すなどの
取り組みも行っている

もともとは紅花商人の蔵屋敷
山形の魅力ある食の提供、地域特
産物の販売などが魅力
山形のこだわりあふれる
そばを堪能

そのほか印象に残つた場所

WHAT WE FELT NEW



七日町商店街（水の町屋 七日町御殿堰）・山形五堰 シェルターインクルーシブプレイス コバル（山形市南部児童遊戯施設）



七日町商店街（水の町屋 七日町御殿堰）・山形五堰



引用：日経クロステック
シェルターインクルーシブプレイス コバル
(山形市南部児童遊戯施設)

城下町などを網目のように流れる水路

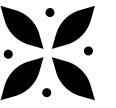
柳の木が穏やかに風になびき、歴史的外観を保ちながらおしゃれな雰囲気を持つ

隣接するカフェとの親和性が◎

大人のみ、子どものみの入場が制限された親子対象の児童遊戯施設

子育ての一環で親子で楽しめるイベントを多数開催

山形市



①①⑨



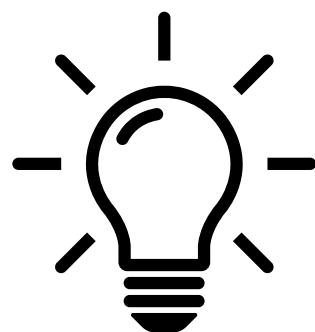
現地視察を通して・気づき

WHAT WE NOTICE



街を散策して・・・

- ・平日ではあったが、人通りが少ないと感じた
- ・出張できているビジネスマンが多い印象
- ・車社会、交通網が少ない
- ・街が整備されていて、綺麗だった
- ・市が運営する「コミュニティサイクル」は移動手段として便利に感じた



文化財をまわって・・・

- ・歴史建築物の老朽化が進んでいる
- ・復元へのハードルの高さと人員不足の問題が見られる
- ・歴史建造物の再生と復元に力をいれている印象がある

【山形市文化財】



①11

地域のアイデンティティを形成する貴重な財産
かつ
観光やまちづくりに活用することで人々の交流
(交流人口=定期的に山形市に足を運んでくれる人の増大) を促進させる地域遺産

文化財を一点ずつではなく、包括的に管理→保存→活用し、
地域の方々はもちろんのこと、交流人口を含めた市民に還元するにはどうすればよいか。

家族向け

山形の定住者
近隣地域（宮城や福島など）からの観光客
山形出身でUターンの可能性がある人々

観光客向け

地方に興味がある外国人観光客
自然やレトロ感を求めて訪れる日本の若者

「文化創造都市」の促進

家族向けプラン

山形市  ①2

山形の定住者、近隣地域（宮城や福島など）からの観光客、山形出身でUターンの可能性がある人々



シェルターインクルーシブプレイス コバル (山形市南部児童遊戯施設)

あらゆるちがいに関係なく、誰もがお互いを認め合い生きていくことができる社会の創出を目指した施設。

子供たちの想像力をはぐくみ、互いに交流するための重要な場所になっている。

このような取り組みは全国でも珍しく、他の都道府県から多くの視察も来ている。

コバルをヒントに

子供たちが文化財に触れることで、山形市の歴史や文化財を保存・活用する取り組みに興味を持ってくれるのではないか。
次世代の文化財保護の担い手の醸成という点でも期待できる。



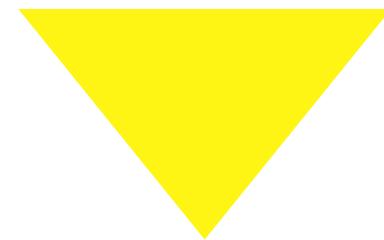
文化財を「ザ・歴史建造物」もしくは「歴史を学ぶため」の施設ではなく、「子どもたちの集いの場」として機能することを第一の目的とし、その一直線上として「歴史を学ぶ」「興味をもつ」きっかけを提供する場に切り替えていくことが重要。

家族向けプラン

山形の定住者、近隣地域（宮城や福島など）からの観光客、山形出身でUターンの可能性がある人々

具体的な方法

文化財を保存している施設、もしくは文化財として指定されている建物のうち、十分な広さを確保できるもの、バリアが少ないもの、もしくは簡単にバリアフリー化できるものをピックアップし、子供たちの遊び場、体験型学習施設として発展させる。



しかしながら、国指定の重要文化財に手を加えることは困難であり、子供たちが安心して遊ぶことができるようになるには人員の確保も必要である。

よって、コバルのように大規模な施設を新規で建造するのではなく、今ある施設にそういった体験学習のコーナー＋子供が遊べる環境を作ることが実現の可能性を高めるには重要なのではないか。



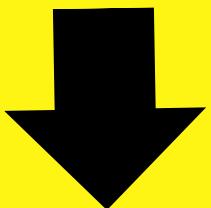
山形市郷土館（旧済生館）

- ・ナイトミュージアムの企画が行われている場所
- ・ナイトミュージアムは年1回での開催だが、話題性の大きさ、来場者数の増加でシーズンごとの開催に。



文翔館(旧山形県庁)

- ・市の主催で、子供向けのワークショップを定期的に開催する
- ・文翔館には **TSUKI CAFÉ** という飲食可能な喫茶室が存在する



親が子供を預けている間に、飲食を楽しむことが可能であるのも大きなメリット

山形の定住者には、こどもや大人に**身近な文化体験の場**を。
近隣地域（宮城や福島など）からの観光客には、**県外からでもきたいと思ってもらえる魅力的な場**を。
山形出身でUターンの可能性がある人々には、**移住を考えもらうきっかけ**を。

クリエイティブセンターQ1

- ・山形市立第一小学校の真隣という好立地！
- ・学校終わりのイベント参加が容易なのでは？

例) 野外シネマイベント、フリーマーケット

文化財を活用した観光・交流事業

- 歴史的建造物や寺社を舞台に、映画上映・演劇・コンサート・アート展示を開催
- 紅花染めや陶芸、仏像修復といった「体験型観光プログラム」を実施
- 隣県の地域（たとえば仙台や福島市）のイベントと連携した「日帰り文化体験パック」を設定し、ファミリー・学生層をターゲットに

憩いの場としての文化財再生

- 文化財を会場とした陶芸・染織・木工などのワークショップを定期開催
- 空き蔵や古民家をカフェ・図書館・サードプレイスとしてリノベーション可能であれば、文化財や歴史のある建物を改築する
- 文化財周辺でマルシェや屋外映画上映を実施し、「文化財 × 都市公園」型の利用を促進



手つかずの日常・自然をもとめる！「リアリティ」が欲する時代？

山形市



①18

岩手県盛岡市の事例を参考に

ニューヨーク・タイムズの記事では、イギリス・ロンドンと並んで、岩手・盛岡市が紹介され、観光業界を中心に話題となった。

「山々に囲まれ、東京から新幹線で2~3時間の距離にある。市街地は歩きやすく、西洋と東洋の建築美を融合した大正時代の建物、モダンなホテル、いくつかの伝統的な旅館、曲がりくねりつつ流れる川がある。古い城跡が公園となっている（盛岡城跡公園）のも魅力のひとつだ。」「車で1時間ほど西に行けば、田沢湖や世界有数の温泉が多数ある。」

“WALKABLE GEM”（歩いて回れる宝石スポット）
日常、暮らし、うそのない文化
AUTHENTIC（本物）を経験したい人



山形の特性や現状と重なる

BUSINESS INSIDER 「NYタイムズは、なぜ岩手・盛岡に「行くべき」と紹介したのか。岩手県知事は“地方都市ならではの魅力”を分析」
<HTTPS://WWW.BUSINESSINSIDER.JP/ARTICLE/272852/>

地方観光の【トレンド】
WHAT TOURISTS LOOKING FOR

トレンドに沿った文化イベント

- 外国人観光客向け「お茶体験イベント」などを開催
- 文化財空間での茶会：古民家や寺院を舞台にした少人数制の茶道体験を実施
- 映画祭コラボ：上映合間に抹茶と地元菓子を楽しめる「茶会ラウンジ」を設置。
- 四季の茶プログラムで季節ごとの訪問動機を創出する（清風荘など歴史ある場で）

国際的文化拠点としてのブランド化

- 紅花染めや陶芸、仏像修復といった「体験型観光プログラム」を開発し、多言語対応を実施
 - 海外アーティストや研究者の滞在制作を文化財で展開する。
※アーティスト・イン・レジデンス（AIR）とは、国内外からアーティストを一定期間招へいして、滞在中の活動を支援する事業のこと

それらの活動によって「文化財 × 現代芸術」の国際的発信拠点を形成することでリピーターを増やす。映画祭と並ぶ二本柱に。



「文化財を包括的に管理 → 保存 → 活用」する仕組みを考えると、
単発イベントや個別施設活用だけではなく“文化財ネットワーク”
を都市全体に築く視点が必要！

文化財の「ネットワーク化」

- ・エリア全体を“オープンミュージアム”に
街中の寺社、古民家、蔵、近代建築などを「点」ではなく「線・面」でつなぎ、歩いて巡る「文化財回廊」を形成
- ・デジタル化
文化財を一覧できるアプリを整備し、来訪者が自由に回遊できる仕組みを構築。

「生活」と「交流」の両立

- ・文化財をカフェ・図書館・学習拠点として解放し、市民の居場所として根付かせる
- ・同じ文化財空間を観光客には茶会・工芸体験、地元住民にはワークショップや子ども向け学習として提供し、共存を図る

シティプロモーションとしての統合

- ・「文化財・食・自然・映画」の統合ブランド化
- ・山形ドキュメンタリー映画祭や食文化（芋煮、蕎麦）、自然景観（蔵王、立石寺）と連携し、「山形に来れば文化財と生活文化すべてを体験できる」という都市像を発信



若者世代ができること・今後の展望

今回のスタディーツアーでは山形市の多くの文化財の一部を視察させていただき、それらの現状も目にした。文化財の活用方法は様々で、それぞれが今後、管理・保存・活用していく上での課題を抱えていた。

1. 文化財保存のためのクラウドファンディングの企画

文化財の適切な保存のためには金銭と人員が必要。若者が呼びかけることで、より多くの人々にリーチする。外部の人間である我々だからこそ、文化財の歴史的価値・魅力を説得力を持って伝えることができる。

2. 外国人向けの情報発信

他にも、文化財の説明、施設案内、観光客に必要な情報等を専攻語で翻訳する。外国人観光客が増加すれば、山形市内でお金を使う機会が増え、将来的な文化財保護のための資金増加が見込める。

3. SNSで情報発信・運用に力を入れる

実際の体験談は、公に発信する宣伝とは違った対象に様々な効果を生む。「行きたい」という願望から現実的な計画に人々の関心を運ぶような、若者だからこそ着目できる観点を利用したSNSでの発信で山形市への入り口を広げる。

今回のスタディーツアーを踏まえたうえでの指針

1

文化財を引き立てる自然にも着目してみる

2

文化創造都市としての持続性について考える

3

留学生や東北出身の学生の参加でより新しい視点を

ご清聴ありがとうございました。

THANK YOU FOR LISTENING